

経営比較分析表（令和2年度決算）

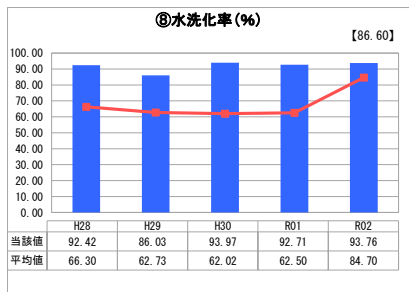
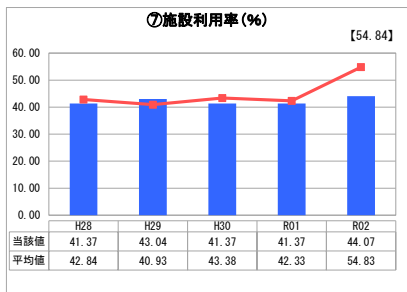
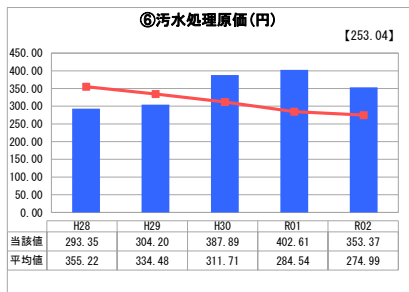
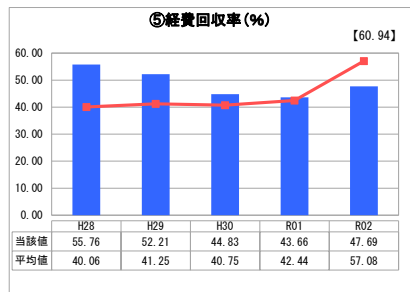
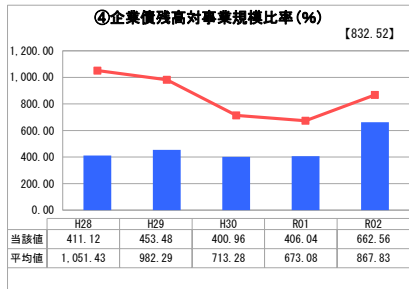
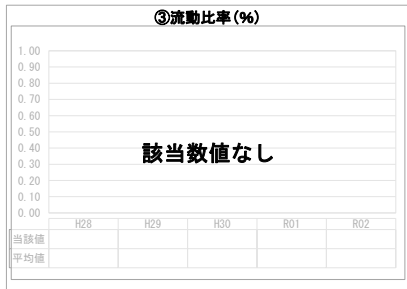
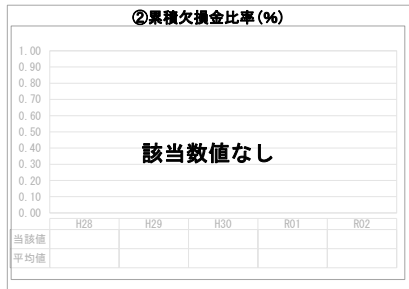
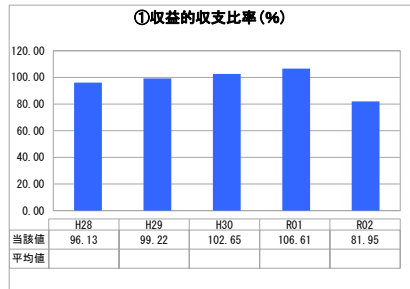
熊本県 南阿蘇村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	7.45	100.00	3,850

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,373	137.32	75.54
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
769	9.80	78.47

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

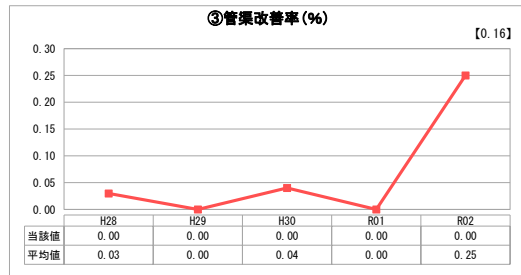
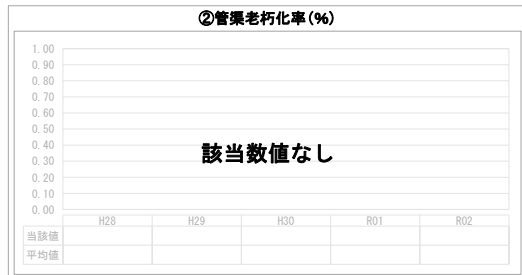
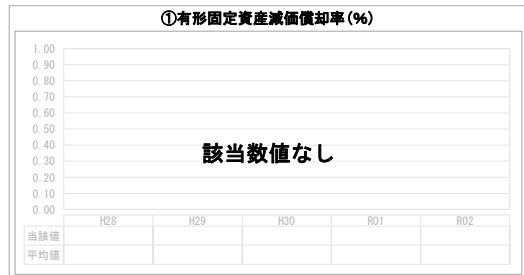
1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率が昨年度より減少しているが、営業外収益(国庫補助金、一般会計繰入金)が減少したためである。
 ②企業債残高対事業規模比率が昨年度より増加しているが、その要因としては令和2年度に起債事業を実施したことで比率が悪化したためである。
 ③経費回収率は微増したが、依然として平均値を下回っている。要因としては使用料収入に対して汚水処理費(手数料、修繕費等)が増加傾向にあるためである。100%に近づくように経営改善を図る必要がある。
 ④汚水処理原価は昨年度より減少しているが、平均よりも高い。維持管理費の削減や使用料の改定等による経営改善に取り組む必要がある。
 ⑤施設利用率は昨年度より微増であるが、ほぼ変更がない。
 ⑥水洗化率は昨年度とほぼ変わらないが、少子高齢化による人口減少が見込まれるため、同様に低下することが見込まれる。引き続き水洗化率向上に取り組む必要がある。

2. 老朽化の状況について

供用開始から16年が経過し、既に対応年数を超過している機器・機械もある。今後は最適整備構想並びに、令和3年度策定の事業計画に基づいた適正な老朽化対策及び機能強化を行っていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

施設の老朽化に伴い維持管理費の増加が見込まれ、経費的には厳しくなることが予想される。現状でも使用料収入だけでは賅えていないため、使用料の見直しの検討も必要である。また、令和2年度に策定した経営戦略に基づき、施設の更新を適正に行い維持管理費の削減もあわせて取り組む必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。